

金沢が割り箸の国内生産ナンバーワンだということを知っていますか？

なんと日本一なんです。中国の製造現場の写真を見せてもらいましたが、食欲が減退するような不衛生さに驚愕（きょうわく）でした。

しかし、現在、日本国内で流通している割り箸の90%は、中国産から、安全・安心が求められます。

舞台



雅珠香（あさか）
フードアナリスト
日本箸教育講師

国内生産シェア約80%のメーカー、中本製箸株式会社（金沢市）

理由で市場をとっています。ここには見逃すことができない大きな問題があります。それは、漂白剤や防カビ剤の使用が指摘されていることです。既にカビが生えてしまっている木も、防カビ剤で煮

はあであるでしょうか。

また原材料の調達が心配されますが、決して木を伐採している訳ではありません。木も人参（じんじん）や大根と同様、間引きし、木を太らせる“間伐”が必要です。割り箸には、短かったり節が多過ぎたりして山に放置される木を使用しており、間伐材の活用に悩む全国の森林組合から引き合いが強いそうです。

近年は、金沢や白山、五箇山などの木で割り箸を作ってほしいという依頼が多いそうです。割り箸も産地にこだわる時代なのかもしれません。薬品不使用の箸は、香りも手触りも良くて、お料理がさらに美味しく頂けますよ。（金沢市）

金沢の割り箸は日本一